

## 多言語対応・ICT化推進フォーラム 「国際イベント開催にあたっての調布市の多言語対応の取組」

講師：調布市生活文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック担当 主任 武田 英里氏  
調布市行政経営部広報課 主任 久保田 藤郎氏

2019年12月24日、「2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会」は多言語対応の取組事例を広く共有・発信するため、「多言語対応・ICT化推進フォーラム」を開催しました。

講師として、調布市生活文化スポーツ部のオリンピック・パラリンピック担当・武田英里氏と、調布市行政経営部広報課の久保田藤郎氏が登壇し、ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下、ラグビーW杯2019日本大会）会場が所在する調布市において取り組んだ、多言語対応による観光案内や日本の文化体験など様々なおもてなしイベントを紹介しました。



武田氏は、調布駅前で行われた「調布スクラムフェスティバル」について紹介しました。

調布スクラムフェスティバルでは、書道体験や生け花体験など日本文化を楽しめるスペースが設けられました。また、2002年FIFAワールドカップで、サウジアラビア王国代表チームが調布市で事前キャンプを行って以来親交のある、サウジアラビア王国の文化体験や、かつて東洋のハリウッドと称された「映画のまち調布」にちなみ、映画撮影体験や昭和あそびが体験できる「映画のまち調布Days」も開催されました。



調布スクラムフェスティバルでは、日本語、英語、中国語、韓国語のパンフレットを制作して配布するとともに、ボランティアが74言語対応の翻訳ツールを使用し観光案内を行うことで、調布を訪れた外国人観光客を楽しませました。

久保田氏は、ラグビー観戦に訪れた観光客に、街を周遊してもらうために行ったプロモーション施策について紹介しました。

調布市は、都内で2番目に古い寺院である深大寺があり、寺院の周辺では深大寺そばが有名です。また都立神代植物公園があり、都心から近い場所に史跡・食・自然という観光に必要な資源が揃っています。こうした資源を活用するため、調布市では、PR映像の制作やインバウンド向けウェブページの新設、SNS広告、電車内広告などを幅広く展開しました。PR映像は、調布市の魅力を「四季」「体験」などのテーマに分け紹介するもので、日本語・英語・中国語・韓国語版をそれぞれ制作しウェブ上での配信をはじめ、市内や新宿駅等で放映しました。



また、外国人観光客が調布の情報や魅力を知ることができるよう、インバウンド用ウェブページ「Guide to Chofu, Tokyo」※1を、株式会社共同通信デジタルが運営する在日外国人向けコミュニティサイト「City-Cost」※2内の特設ページとして開設しました。「Guide to Chofu, Tokyo」では、外国人にとって見やすい構成にするとともに、ジャンル分けを工夫し、ネイティブの外国人に文章を書いてもらうことで、読みやすく、調布に行ってみたいと思える内容を目指しました。また、訪日前と訪日中の外国人を対象とした広告を国内外にSNSで配信しました。電車内広告では、訪日外国人を対象に、ポスターを貼り出したり、映像をモニターに流したりしました。

こうした一連のプロモーションは調布市の認知度アップに一定の効果をあげたものの、「スタジアム周辺や駅前のパブリックビューイング以外のエリアに、観光客に立ち寄ってもらうための工夫が必要。」と久保田氏は指摘します。訪日外国人への聞き取りでは「ご飯を食べるところ、お酒を飲めるところを探している。」という声が多く、今後は広告コンテンツだけでなく、食やレジャーの分野を充実させ、より街を楽しんでもらえる対応に取り組めます。

※1 Guide to Chofu,Tokyo : [https://www.city-cost.com/guides/tokyo-chofu\\_experience](https://www.city-cost.com/guides/tokyo-chofu_experience)

※2 City-Cost : <https://www.city-cost.com/>

(令和2年2月作成)